

スーパースプレダム工法 施工要領書

株式会社アイゾールテクニカ

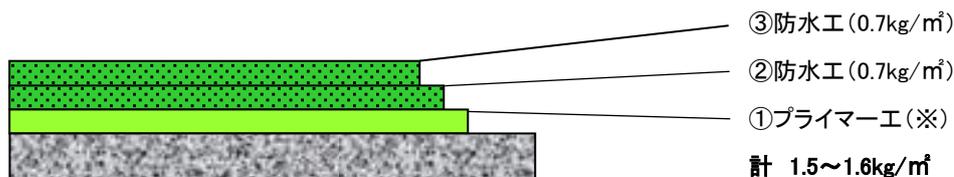
施工前の注意事項(下地処理)

防水下地は防水性能に直接影響を及ぼしますので、次の点に注意して施工を行ってください。

1. 下地に錆、油、汚れなどが付着している状態で防水材を塗布すると、防水材と下地との付着力が低下して塗膜の剥離の原因となります。その場合は、電動工具、ワイヤーブラシなど適切な方法により、汚れを除去してください。
2. 水性材料のため下地の水分管理（水分率）は特に設定していませんが、早期の塗膜形成・防水層の膨れ防止のため、表面が乾燥していると視認できる状況のもとで使用してください。なお、目視による確認が難しい場合は、水分計を使用して表面状態を確認してください。参考管理指標としては、表面水分率 10%以内（日本道路協会編 道路橋床版防水便覧における管理指標）とします。また、下地が濡れている場合は、ブロワーなどで強制乾燥させるなど措置を行ってください。
3. 水勾配は、床版下地で確保し、雨水などが防水層やドレーン付近に滞水しないように留意してください。
4. その他、留意事項については、鋼道路橋防食便覧（日本道路協会 編）、道路橋床版防水便覧（日本道路協会 編）や道路橋床版防水システムガイドライン（土木学会編）などを参照してください。

スーパースプレダム工法の標準工程と仕様

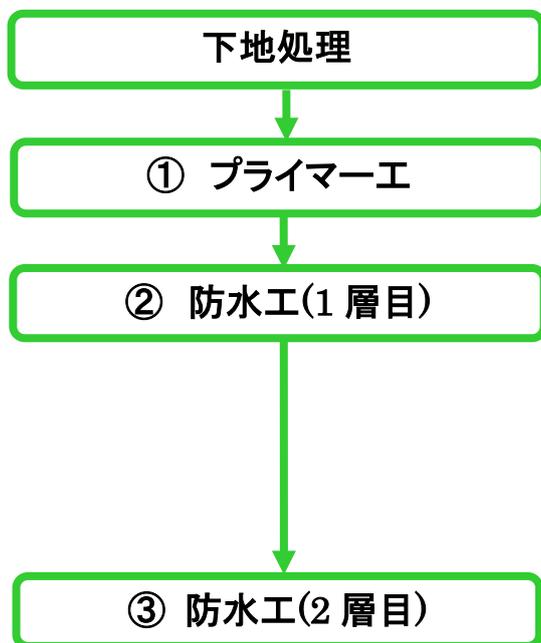
スーパースプレダム工法



※ 下地がコンクリートや吸込みがある場合…0.2 kg/m²

下地が鉄部の場合…0.1 kg/m²

スーパースプレダム工法施工手順



別項目参照

スプレダムシール E をローラー・万能刷毛にて塗布する。
 乾燥時間 夏季:約 30分(気温 25℃ 晴れ)
 冬季:約 1~2時間(気温 5℃ 晴れ)

スーパースプレダム G 主剤 9kg(1/2 缶)に対して、スーパースプレダム G 混和材 6kg(1 袋)を入れ、約 5 分間攪拌する。
【配合比率 主剤:混和材=3:2】

これをローラー・万能刷毛(推奨)などにて塗布する。(厚塗り、たまりのないよう均一に塗布)。
 乾燥時間 夏季:約 2時間(気温 25℃ 晴れ)
 冬季:約 4~5時間(気温 5℃ 晴れ)

スーパースプレダム G 主剤 9kg(1/2 缶)に対して、スーパースプレダム G 混和材 6kg(1 袋)を入れ、約 5 分間攪拌する。
【配合比率 主剤:混和材=3:2】

これをローラー・万能刷毛(推奨)などにて塗布する。(厚塗り、たまりのないよう均一に塗布)。
 乾燥時間 夏季:約 2時間(気温 25℃ 晴れ)
 冬季:約 4~5時間(気温 5℃ 晴れ)

施工上の注意事項

共通

- 雨天の場合および降雨が予想される場合は、施工しないでください。
- 材料の河川などへの流出を避けてください。
- 材料は 5°C以上～30°C以下の冷暗所にて貯蔵、保管してください。
- 気温 5°C以上、湿度 90%以下で施工してください。
- 下地温度が 5°C以下になることが予想される場合は作業をしないでください。

プライマーエ

- スプレダムシール E の主剤と硬化剤を 1 : 1（重量比）でよく攪拌・混合してから、刷毛やローラーにて塗布してください。主剤（白色液体）は成分が沈殿しやすいため、硬化剤と混合する前に、十分に攪拌してください。
- 指定された材料以外とは混合しないでください。
- 攪拌混合後の可使用時間は 2 時間です。2 時間以上経過した混合液は使用しないでください。
- 塗布後の上塗り材の塗布可能時間は、乾燥硬化後から 4 日以内です。

防水工

- 材料は攪拌機を使用し、ダマがなくなるまで十分に攪拌して下さい。ダマが残るとその部分だけ塗膜が形成されず、防水性能に悪影響を及ぼします。
- 主剤と混和材を混ぜた防水液は、長時間放置せずにできるだけ早く使用して下さい。
- 出来型管理は塗布量で行ってください。
- 防水材を塗布する場合は、施工面に対して、しっかりと押さえて圧力をかけながら塗布してください。早く塗布すると、塗膜内に空気を巻き込みやすくなり、造膜後に空気の膨張により防水層が膨れる恐れがあります。
- 一度に防水層の厚塗りをすると塗膜に亀裂が発生するので避けて下さい。
- 防水層の乾燥前に、重量物を載せたり、足で踏みつけたり、水をかけないで下さい。
- 防水層が完全に乾燥したことを確認してから次の工程に進んで下さい。特に日陰や隅角部は乾燥が遅くなるので、ブロアーや送風機、ジェットヒーターなどで早期乾燥を促して下さい。
- 防水施工完了後、完全に硬化するまでは（夏季：12 時間、冬季 24 時間以上）、上から物を落としたり重いものをひきずったりして防水層を破損させないように注意して下さい。
- 施工後に、塗膜に膨れが発生した場合は、膨れ箇所のみを切開してその部分に防水材を塗布してください。

施工管理（出来形管理）および品質管理

防水施工の出来形管理、品質管理上の項目、方法、頻度、基準を示します。

工種別	項目	管理方法	頻度	基準
コンクリート・鋼板面	水分量	目視	施工全面積	床版表面が乾燥していること
		水分計（電気抵抗式を推奨）	3点以上/500㎡もしくは各種規準及びマニュアルに従う	10%以下
	変状・不陸	写真撮影による記録	変状、不陸がある場合	著しい変状がないこと
	塵埃、油脂など汚れの除去	目視	施工全面積	ないこと
	気温・湿度	温湿度計	施工前	外気温 5℃以上 相対湿度 90%以下
プライマー層	塗布量	材料使用量（充缶・空缶）	1回/工区	0.1～0.2 kg/㎡以上
	塗りむら	目視	全面	未塗布箇所のないこと
	気泡・きず	目視	全面	ないこと
	完了確認方法	指触乾燥により確認	全面	指触時に塗料が付着しないこと
防水層	施工間隔	プライマー塗布後の保持期間	作業前	1日以内
	塗布量	材料使用量（充缶・空缶）	1回/工区	0.7 kg/㎡以上（1層当たり）
	塗りむら	目視	全面	未塗布箇所のないこと
	気泡・きず	目視	全面	ないこと
	完了確認方法	指触乾燥により確認	全面	指触時に防水材が付着しないこと

＜本製品のお問い合わせ先＞

株式会社アイゾールテクニカ 技術部

TEL:075-757-8199